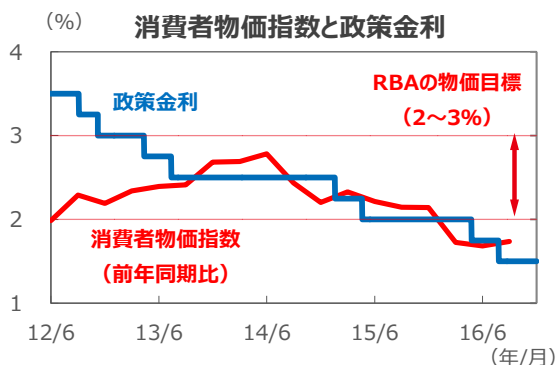


今日のトピック 豪州の金融政策は前月に続き据え置き（2016年12月）

底堅く推移する国内景気を評価

ポイント1 史上最低の1.5%を維持 国内景気は底堅く推移

- 豪州準備銀行（RBA）は12月6日に開催した金融政策決定会合で、政策金利を1.50%に据え置くことを決定しました。ブルームバーグ社の集計によれば、対象27名のエコノミスト全員が据え置きを予想していました。
- RBAの注視する消費者物価の最新データの公表まで2カ月ほどあるうえ、失業率の低下が示す通り国内景気が底堅く推移していることから、政策金利を据え置いたと考えられます。

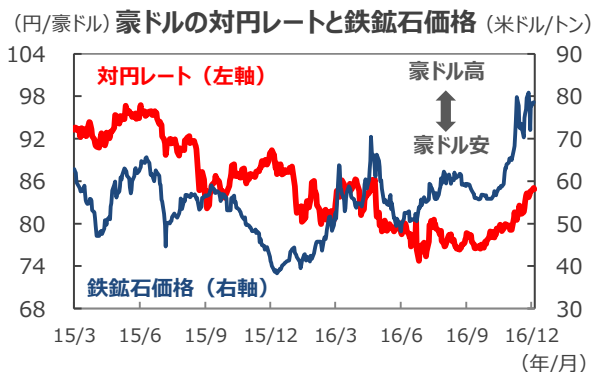


(注) 消費者物価指数は2012年4-6月期～2016年7-9月期。消費者物価指数はトリム平均値。政策金利は2012年6月30日～2016年12月6日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 当面は現状維持の見通し 声明文は前回とほぼ同じ内容

- 声明文の内容に、前回から大きく変わったところは見られず、先行きの金融政策スタンスについても特に言及はありませんでした。
- RBAは、年末にかけて国内景気が鈍化する可能性を指摘しましたが、その後は雇用の改善や金利低下による個人消費、住宅投資など非資源セクターの拡大、設備増強に伴う液化天然ガス（LNG）などの資源輸出増大により、再び上向くと予想しています。



(注) データ期間は為替レートが2015年3月2日～2016年12月6日。2016年12月6日は日本時間14時時点のレート。鉄鉱石が2015年3月2日～2016年12月5日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 豪ドルは底堅い展開へ

- 豪ドルの対円相場は、中国での需給改善による鉄鉱石や石炭等の資源価格の持ち直しを受け、今年6月下旬を当面の底に戻り歩調を辿っています。
- 今回の会合直後の豪ドルは、金利据え置き決定が市場の予想通りだったため、小動きにとどまりました。
- RBAは、物価の下振れ懸念から緩和気味のスタンスをとっていますが、①鉄鉱石や石炭に加え、石油輸出国機構（OPEC）の減産合意による原油価格の底入れ、②トランプ次期米大統領の積極財政を支えとする世界的な景気拡大期待などを背景に、今後も豪ドル相場は底堅く推移する見通しです。

ここも チェック!

2016年11月30日 アジア・オセアニアの株式市場（2016年11月）

2016年11月24日 アジア・オセアニアのリート市場の動向（2016年11月）

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。